

活動報告

団体名	球磨川アドベンチャーズやつしろ
活動名	令和2年7月豪雨災害における坂本町住民のための暮らし再生支援活動
活動期間	2020/09/01～2020/12/31
活動の成果	<p>初動の救助活動では、地元会員がこれまで当団体の活動で学んでいた危機管理能力やレスキュー技術、カヌー技術、そしてボート等の助成金で揃えていた備品等を役立てることが出来、ご高齢の方の多い地区だったが、自宅2階や屋根に避難していた30人程の住民さんを安全にサポートすることが出来た。また、地元の地理や道路事情を理解していたので、被災により孤立した集落へ水やおにぎりやパン等の食料品を届ける活動を行った。被害状況を考慮した上、熊本地震の災害支援活動での経験を活かし、災害支援団体として活動することを開始した。戸惑う被災者さんたちと話し合いの上、現地でいち早く活動拠点を決定したことで、水などの緊急性の高い支援物資の受入提供や県内ボランティアによる泥出し・家財出し作業を早い段階から行い、情報の不足する坂本住民への支援にあたった。SNSによる現地情報発信を積極的に行い、全国の支援者に支援の輪を呼びかけた。その後も八代市災害ボランティアセンターや他の支援団体との連携を図りながら、半年間ほぼ毎日活動を継続し、コロナ禍で動きが制限される中でもたくさんの被災者さんに地元団体として寄り添い、地域のお手伝いや時間の経過によって変わっていくニーズ(物資では食料品、衣類、生活雑貨、大型家電)に応えることが出来た。また、炊き出しによる地域交流の場づくりや、災害ごみの回収による環境保護、環境美化に貢献することができたと考える。復旧計画は6～10年の長い道のりとなり、山間部の広範囲にわたる坂本地区はまだまだ生活の再建が出来ず、多くの住民が自宅を離れた状況であり支援を必要としている状況に終わりはみえません。行政の動きに注目しながら、地域の明るい未来へ向かう自立を目指すために身近なところで住民さんの気持ちに寄り添い、サポートする側も無理がない体制で活動を未永く継続することが必要となっている。そして今後も起こりうる災害に備えた防災意識と環境問題をみんなで考えることが重要と考える</p>
寄付者へのメッセージ	<p>全国の支援者様から寄せられたあたたかいご支援、心より感謝申し上げます。お預かりした寄附金は、現地ニーズに合った支援に代えさせていただき被災者様へ提供させていただきました。お陰で、微力ながら当団体は球磨川でのアクティビティの経験を活かし、ふるさとを守る支援チームとして他団体や機関と協力・連携を図り、活動を続けることが出来ました。まだまだ復旧・復興の道のりは長いですが、この全国どこでも起こりうる災害からどう復興するのか、しっかりと未来を見据えながら今後も活動を継続していきます。これからも球磨川流域へお心寄せいただきますようどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p>

(活動のようす)

